

# 結婚支援は

## 地域活性化の重要なツール

「過疎・離島地域結婚サポート強化推進事業」中間報告

えひめ地域政策研究センター 主任研究員 須山 広周



### はじめに

「就活」ならぬ「婚活」という言葉が頻繁に耳に入るようになって久しい。

日常生活においてなかなか出会いの場のない独身の方々の多くが、いろいろな出会いの場として「結婚支援イベント」に参加するという活動をもつて、自身の伴侶となるべき人を探すようになった。

少し昔であれば、お見合いや地域の人の紹介といったものや、自分の住んでいる地域や職場に多くいた若い男女同士の交流の中から派生して交際、あるいは結婚に至るといった場面も多かったのだが、どうも最近はその場面には事が運ばないらしい。

そして、若い人達が集まる都会ですらそのような状況にある中、その若い人達が少なくなってしまうという過疎・離島地域においては、さらに深刻な状況にあると言える。

このことから、これらの状況を何とかしたいという県の強い意向もあり、当センターでは、今年度「過疎・離島地域結婚サポート強化推進事業」として調査研究を受託しているところである。

### 受託に当たっての

#### 三つの柱とその進捗状況

センターが県から受けた調査内容とその進捗状況は、概ね以下のとおりである。

### 1 実態調査

過疎・離島地域を含んでいる県内市町のうち5地域の協力を得て過疎・離島地域における結婚に関するアンケート調査を実施し回答を得た。

現在は集計作業中であり、その数値から読み取れる傾向や課題点、それらを解決していくための方法について分析・検討することとしているが、「他地域の独身者との交流」ができる「さりげない出会いの場」の提供に「地域や行政による何らかの支援」を望む声が多かった。

### 2 機運の醸成

前記アンケート調査の結果説明も含めて、2月7日に久万高原町、2月8日に

西予市、2月10日に今治市で結婚支援と地域活性化についてのセミナーを開催する予定であり、行政職員や地域住民の方々に地域活性化を図る上での結婚支援の必要性について理解していただくように考えている。

### 3 地域活動主体の育成

機運醸成のためのセミナー開催に併せて(又はその後)、過疎・離島地域で結婚支援活動を実施していく活動主体を育成し、実施に当たつての情報提供等を含めて一緒に考えていく場を必要に応じて設けたいと考えている。

#### 調査を行ってみて

(個人的雑感も含めて)

アンケート調査や他県への事例調査を行う中で、過疎・離島地域への結婚サポートの強化というものが想像以上に難しい案件だというのは理解できた。

その一方で、過疎・離島地域だからこそ留意すべき点があり、それを避けていては結婚サポートの強化が図れないのではないかと考えるようになった。

ここで、そのポイントなる点について述べておきたい。

#### ● 出会うのは

過疎・離島地域で確保すべき

「自分の地域では知り合いに出会う可能性が高いので恥ずかしい」などの理由により、都市部に出て結婚支援イベントに参加されるケースが多いが、そうではなく、自分の住む地域の良さを伝えたり、自分の普段の姿を見せる方が、その人の魅力を引き出しやすいのではないかと考える。

#### ● 「婚活」ではなく

地域の交流支援と考えるべき

となれば、地域の活性化のための他の地域との交流支援事業として捉え、地域住民がみんなで力を併せて行うようなやり方を考えてはどうか。

婚活を全面に出すようなものではなく、観光面などを含めた「地域に来てくれる方へのおもてなし」を地域住民主体で行う中で「さりげない出会い」の場を設けるといった形で、その地域へのファンを増やすことも長期的に見て必要だと考える。

#### ● 可能な限り官民一体となつて行うべき

県外では、首長自らがトップセールスとして呼び込みに尽力する事例も見受けられた。地域住民がより積極的に関わ

る中で、行政も地域の活性化の一ツールとして捉え、官民一体となつた取り組みとして人を過疎・離島地域に呼び込む掛けを考えていくべきではないか。それが、地域に来て欲しいかどうかの本気度のバロメーターとなるのではないかと考える。

#### おわりに

今後は、前述の考えも踏まえつつ、今年度中に調査研究結果を取りまとめることとなる。

この件についての解決策を導き出すのはかなりの難題であると先ほども書いた。しかし、ここはあえて前向きに考え、過疎・離島地域でこそ行える結婚支援の方法について検討していきたい。

そして出来ることなら、その調査研究結果においてモデルケースを示すとともに、地域の方々と一緒になつて推進していくことができればと思う。

過疎・離島地域であるからこそできること、その場所ならではの強みというものを取り入れた結婚支援というスタイルが見出せないものだろうか。

私は、そういう視点でこの結婚サポート強化に取り組んでいきたいと考えている。